

平成 27 年度 環境教育研修 A2

平成 27 年 6 月 6 日 【場所】ウィルあいち（愛知県女性総合センター）

「都市部でもできる自然体験/保育の実践」 講師：酒井立子氏

- 9:30 開会（司会：金仙先生）（挨拶：松岡先生）
- 9:38 講師紹介（司会：金仙先生）
- 9:40 講師のお話
- 10:00 市政資料館で見つけた自然を描く
- 10:30 描いたものを切り取ってマップに貼り「みーつけたマップ」作る
- 11:10 グループに別れ話し合い、感じたことの共有及びグループ発表
- 12:00 市政資料館の庭にてまとめ、質疑応答
- 12:30 閉会

【市政資料館で見つけた自然を描く】

- ・各自、市政資料館にて自分が素敵だと感じた自然を透明のフィルム（本の保護シート 2L 版程度の物）に各自 10 個ほど油性ペンで書き込む。

【描いたものを切り取ってマップに貼り「みーつけたマップ」作る】

- ・市政資料館の見取り図に描いた物を見つけた場所に貼っていく。



【グループに別れ話し合い、感じたことの共有及びグループ発表】

☆テーマ 1（7分） 「自分が見つけた自然への感想」

- ・雨水のついたクモの巣がきれいだったと思った。視点を変えることによって自然の素敵さを感じた。
- ・名古屋市中心部に自然はあるの？と思ったが、よく見ることで沢山あることを確認できた。
- ・自園にも今回学んだような小さな自然でも増やそうと思った。
- ・アリが思っているより大きかった。



- ・研修者は大人だが子どもはまた視点が違うと思う。子どもの視点で見ると面白いかもしれない。
- 講師総評：五感を使った自然の感じ方をもっと知って欲しい。見えるものがまた違って見える。

☆ テーマ 2（7分） マップの感想、自園に持ち込めること（話し合いの中から新しい発見を得よう）

- ・子どもたちの集めてきた自然物（宝物）を展示できる博物館を作ってみると面白い。
- ・園で作ったマップを園外に持ち出し、同じ生き物や植物の発見した驚きや喜びを子どもに味わってほしい。
- ・保育室にマップを用意するべきだ。
- ・子どものほうが知っていることもある。それらを集めて園のオリジナル図鑑を作ってみてもいいと思う。
- ・保育者の知識も必要だ。（その生き物の生態や、植物を使っての遊び方という意味の知識）
- ・地図を作るところから子どもたちと作り、地図の意味合いを伝えていっても楽しいと思う。
- ・季節ごとにマップを作っても違いがあって楽しいと思う。
- ・上手にサラ粉が作れる場所といった、遊びに関するマップ作りをしても楽しいだろう。
- ・絵で表現するのが難しいのならシールなどを使って楽しめられると思う。
- ・自然の中で見つけた色でマップを作成しても楽しいと思う。
- ・自由な発想で子どもたちが見てくれるといい。（葉っぱが顔に見える等）
- ・親子でマップ作りをしてみても楽しいと思う。
- ・絵で描けない子どもにも言葉や表現で喜びを感じてもらえばマップ作りに参加できるだろう。
- ・付箋（ポストイット）よりも透明シールだと表現や視覚化などで利点がある。
- ・子どもたちが目立ちやすい生き物や植物に注目するのではないかという懸念がある。
- ・こういった活動を園のほうから保護者に向けるのも幼稚園の仕事の一部ではないだろうか。

- ・まずは保育者でやってみる。保育者が発見や楽しみを知ることで子どもに伝えることに実りが出る。
- ・生き物がいる場所（飼育でも）には子どもたちに何かしらの交流がある。
- ・写真を貼って子どもたちに自然を紹介している。
- ・保育者でマップを作ってから子どもたちへ伝えるといい。
- ・園児数が多い園では、どうしても総括的になってしまう。

【まとめ】

- ・季節や年、またグループが違ってても全く違うものができなのがマップ作りの楽しみでもある。即時的にはグループを変えて前のグループでは見えなかった（発見できなかった）物を見つけたり、長期的には同じマップ作ったりしても年毎に違うことを感じるができる。
- ・保育者がまずやってみるのはいいことだと思う。できた物を保育室に貼っておくと、自ずと子どもたちがマップ作りに子どもに興味や関心を持つのではないだろうか。
- ・グリーンマップという世界共通の記号を持った団体がある。
- ・子どもたちが見つけた葉っぱ（薄い物）などをラミネートしてマップに貼り付けることもできる。
- ・瓶型のプラスチックケース（酒井氏は無印良品をお勧め）があれば、虫を直接触らずに捕獲できるし、透明なので観察もしやすい。ガチャガチャのカプセルでもできる。

【質疑応答】

Q 樹木についているニルニルしたものは何？

A 樹液。桜の樹液にカブトムシが来ることもあるし、葉の根元にある小さな穴にアリが樹液を採りにくるともある。

Q 簡単なビオトープを作りたい。なぜビオトープに貝類が発生するのか。

A プランター、洗面器、土で作れる。一ヶ月ほどでできる。移動が簡単で小さいので色々対応できる。ただ水は定期的に交換が必要。貝類の卵が大気中に舞っているものだと考えられている。

Q セミの抜け殻を見つけた。いつのものだろう。

A 去年、脱皮したもの。この地域にハルゼミはいない。そしてセミのツメはとても強い力だ。この時期までくっついていた抜け殻を褒めてあげたい。

Q 新しい発見（何度でも見た自然の中での発見）になぜ、そんなに夢中になれるのか

A 保育者として、子どもに興味を持たれる存在であるべき。自分が何事にも前向きに関心を持っていれば子どもたちも同調してくれるはず。子どもたちも必要に応じてそれに適った人に頼んだり質問したりしていると思う。

【まとめ】

保育者が子どもたちに対して「自然」への扉を開く存在であってほしい。保護者（大人）はどうしても自然物を嫌ったり、「自分の子どものために」と受動的になったりしている。子どもが自然の中で発見したこと、例えば「この葉っぱは顔に見えるね。」といった素直な思いを共感し大切にしてほしい。